

発表者プロフィール / Presenter Profile

名前	渡辺ミルバ
Name	Mirva WATANABE



所属大学／所属機関	無所属
University／Affiliation	Currently not affiliated

発表テーマ Presentation Topic	日本において「無職であること」はどのような意味を持つか —ナラティブ・アプローチ及びフィンランドとの比較に着目して—
発表の3つのポイント 3 Points of presentation	<ul style="list-style-type: none"> ・「無職者」の社会的ステータスやスティグマ ・研究方法としてのナラティブ・アプローチ ・日本での「無職者」の理解の特徴、フィンランドとの比較

自己紹介 Self-introduction	フィンランド出身。2018年にヘルシンキ大学で日本の働き方について学士論文を執筆し、2019年に東アジア学専攻で修士号を取りました。2020年から東フィンランド大学大学院で心理学を専攻し、とりわけ組織・産業心理学に着目しました。修士論文ではナラティブ・アプローチでボランティア活動についての研究をしました。2022年にはフィンランドの公的職業安定機関でキャリアカウンセラーとして働き、「無職者」への関心が深まりました。現在は博士課程への進学準備をしつつ、研究を進めています。
---------------------------	---

研究分野について About study field	心理学、教育学、社会学を横断するアプローチで日本における「無職者」のアイデンティティ形成や社会的ステータスを研究しています。研究に際しては、ナラティブ・アプローチとフィンランドとの比較を主要な方法としています。つまり、日本とフィンランドにおいて、「無職であること」についてどのようなナラティブが生み出されているか研究し、比較していきます。まだ発展途上の研究ですが、無職者は今までのナラティブアプローチであまり研究されていないため、新しい見解が開かれると思います。
-------------------------------	---

視聴者へのメッセージ Message to viewers	仕事をするのは当たり前とされる現代社会では「無職者」は理想と離れている状態と言えるでしょう。仕事で社会に貢献し、賃金を得ることが社会の倫理になっています。しかし、この社会には仕事（もしくは正規雇用）に就かない人も大勢います。「無職者」に対する社会的スティグマ、個人が抱える罪悪感、職がないことのアイデンティティへの影響を研究しています。量的な研究では調査できない「無職であること」の経験を、ナラティブ・アプローチを使い、考えさせる研究になればと思っています。
----------------------------------	---